



僕のパパは「ハケンシャイン」

でも「ハケンシャイン」ってなんだろう?

それは今からずーっととずーと前の1986年に出来た長ーい名前の法律、

「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び

派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律」に基づく

派遣労働者のこと。

最初は十三業種に限られていたのにその後の改正でどんどん業種も増えて、
セイシヤインに対する割合も上がってきてるんだって

…何だか難しくてよく分からない。





パパに訊くと「宇宙の平和を守つているあのヒーローたちも
地球上にハケンされてきたんだし、

自衛隊だって海外にハケンされたんだよ。」
つて自慢げに話す。

でも…それとはちょっとチガウ気がする。

ママに訊くとミケンにシワを寄せて険しい顔をする。

どーしてなのかな?

「ハケンシャイン」なんだか響きはカッコイイ。。



パパは

「セイシャインってカワイソーな人たちなんだよ。」

「どーして?」つてボクが尋ねると

「責任ばかり背負わされて、それでも会社にしがみついで…

成果が出ないといつ『サセン』や『リスト』されかもしないって
ピクピクしているんだよ。」

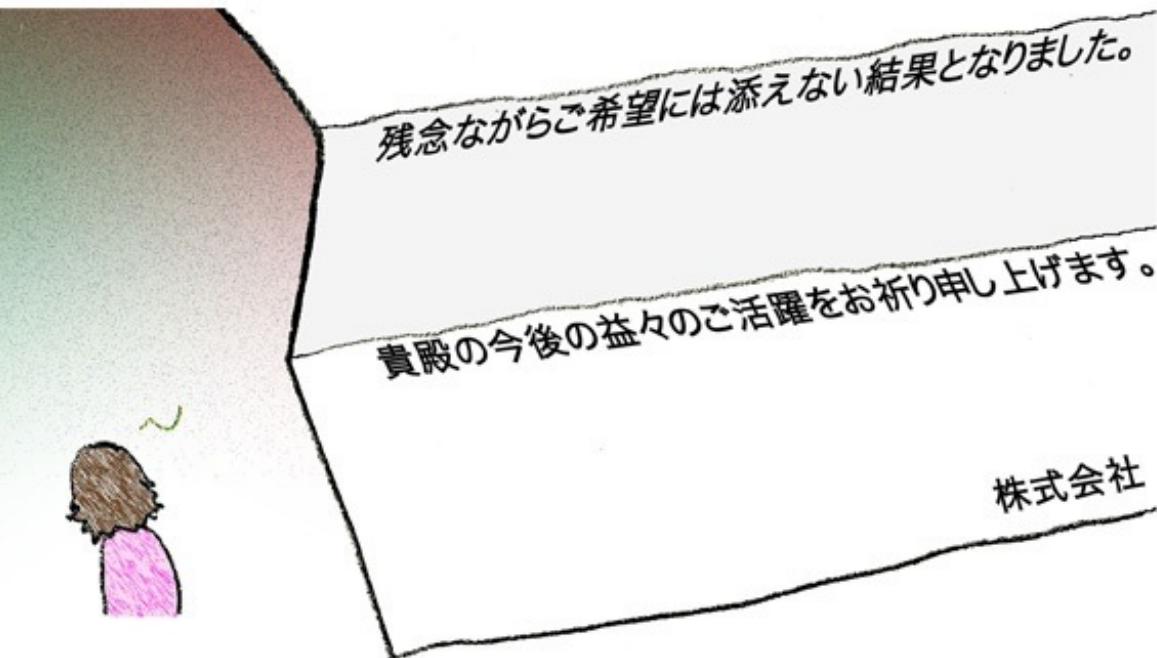
「どーして?」つてまたボクが尋ねると

「それがセイシャインだからね。」つて

…これも何だかよく分からない。

でもボクは知っている。

『ボーナス』って聞くとパパは遠い目をして
「口がどこかに飛んでしまう」と…



時々パパ宛にいろんな会社から手紙が届く。

いつも同じパパの写真を貼ったのと文字ばかりの紙が一枚づつ、
それとも違う紙が一枚入ってる。

パパはそれを見るといつも「またお祈りされちゃったよー」って笑う。

パパにはお祈りしてくれる人がたくさんいるんだって…

ママはそれを聞くと

「はあー」「つとため息をついて何も言わなくなる。」



父



ボクのパパはハケンシャイン。
3ヶ月更新のハケンシャイン。

だからボーナスももらえないし、住宅ローンも組めないんだって…

でもパパは笑う。

束縛されて責任ばかり押し付けられて、それでも会社にしがみついてる
セイシャインより、スキルアップしていい条件の仕事に就く方が
全然いいじゃない?

それに次の仕事さえ決まってしまえばしばらくお休みしてもいいんだぞ。

ボクも大きくなつたらパパと同じハケンシャインになる!

そう言つとママはますます「つい顔になるけれど…

将来のため、家族のため…と云いながらいつもイライラや「つい顔してるより、
今日も明日も明後日もみんなが笑顔でいられる方がボクは好き。



パパは言つ。

「ホントはね、セイシャインもハケンシャインもそんな区別は要らないんだよ。お給料でも責任でもね。

みんなで力を合わせてみんなでやり遂げていく…それが大切なんだよ。」

「じゃーどうして区別してるの?」ボクが尋ねると

「そうやつて区別したがる人がいるからなんだよ。

…ナゼそうしたいのかはパパにも分からない。」

「お前が大人になつた時にはセイシャインなんてなくなつて、みんなハケンシャインになつているかもしねり。」

…でもそうしたらほとんどの人が今のように暮らしていくくなつてしまふぞ。」

そう云ふとパパはまた遠い目になつてしまった…。

ボクのパパはハケンシャイン。3ヶ月更新のハケンシャイン。

同じ職場で何年働いても昇格も昇給もないんだって…。



「お前が将来、何になりたいかは自分で決めるんだよ。どんな世界で生きていきたいか?...も含めてね。

パパも今までいろいろあった。

何も後悔していなことにはウソになるけど、これまで出来たことが重なって今のパパがいるんだよ。

ママがじて、お前がじて、今は本当に幸せだと思つ。
だからお前も悔いのない人生を…な。

そう云つてパパはボクの頭を撫でる。

安心してパパとママ。

ボク、正義のヒーローになつて悪いやつをやつけるんだから…

そう聞くとパパは「うそ」と云つて笑う。

ママはまくまく引き摺った顔になる。